

## 令和7年度 第2回 尼崎21世紀の森づくり協議会 議事録

日時 令和8年3月3日（火）14時00分～16時00分

場所 兵庫県尼崎総合庁舎 別館2階大会議室

## ○委員（出席者12名）

（五十音順）

氏名	役職
東 朋子	NPO法人コミュニティ事業支援ネット理事長
今岡 政彦	尼崎商工会議所総務部長
植村 優子	阪神電気鉄道(株)沿線価値創造推進室部長
岡田 博行	尼崎信用金庫サステイナブル推進部長
北川 淳	尼崎青年会議所常任理事
嶽山 洋志	兵庫県立大学大学院准教授
團野 礼子	兵庫県阪神南県民センター長
中瀬 勲	兵庫県立人と自然の博物館名誉館長
福島 斉	日本製鉄(株)関西製鉄所大阪総務室主査
宗 和弘	アマフォレストの会会長
山田 隆	日本山村硝子(株)監査等委員会室長兼CSR推進室長
横田 敏治	尼崎市社会福祉協議会理事

## ■資料の確認／事務局

## 【資料】

- 資料1 「尼崎21世紀の森構想」今年度の取組状況
- 資料2 尼崎21世紀の森SDGs賞について
- 資料3-1 尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）に基づく取組の進捗状況
- 資料3-2 尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）に基づく主な取組の進捗状況 一覧表
- 資料4 「ひょうごフィールドパビリオン」への登録について
- 資料5 港湾計画改訂、のびのび公園の利活用について
- 資料6 尼崎21世紀の森構想エリアにおける「共創」によるまちづくりの推進について
- 資料7 令和8年度の取組みについて
- 資料8 尼崎の森中央緑地のあり方検討について

## 【参考資料】

- 参考資料1 尼崎21世紀の森づくり協議会設置要綱
- 参考資料2 令和7年度第1回尼崎21世紀の森づくり協議会議事録
- 参考資料3 尼崎21世紀の森づくりSDGs推進ガイドブック（令和8年3月更新版）
- 参考資料4 尼崎21世紀の森づくり行動計画（令和5年3月改訂版）

## ■会長による開会の挨拶

私の地元である高槻市には、たかつき市民環境大学の卒業生らが発足した「芥川倶楽部」という、20年以上川づくりの活動をしている団体があり、数日前に、この会合に呼んでいただいた。今日は、市民や企業が森づくりをする尼崎21世紀の森づくり協議会に呼んでいただいた。そして、数日後には、棚田や石垣を修復して、兵庫県の中山間地域を活性化し

ようとしている「NPO法人棚田LOVERS」として活動している人に会うため、兵庫県市川町の山奥へ行く予定である。約1週間で、3つの地域づくりの会合に呼んでいただいております、地域づくりにおいて、市民や企業が中心になり活動をしていくことが大事である時代に突入してきたと感じる。

尼崎21世紀の森構想エリアでも、尼崎の森中央緑地が自然共生サイトに認定され、画期的な活動がこの場所から始まっていると思う。今日は、更にこの地域を活性化していくということで、ご議論いただきたい。

## ■報告事項

- (1) 「尼崎21世紀の森構想」今年度の取組状況（資料1）
- (2) 尼崎21世紀の森SDGs賞について（資料2）
- (3) 尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）に基づく取組の進捗状況（資料3-1、3-2）
- (4) ひょうごフィールドパビリオンへの登録について（資料4）
- (5) 港湾計画改訂、のびのび公園の利活用について（資料5）

## ○資料説明（事務局）

資料1から資料5をもとに事務局より説明。

## ○意見交換

委員：尼崎21世紀の森構想エリアでは、住民、団体、企業の方々と一緒に様々なことが取組まれており、ひょうごフィールドパビリオンに非常に適した地域ではないかということで、応募したいと考えている。企業からも工場見学等のご提案をいただいております非常に有難い。また、尼崎市でも、オープンファクトリーに力を入れられている等、地域と共に取組んでいける素質のある地域であると思う。

会長：NHKで工場見学の番組がある。

委員：NHKの取材を受けた工場があり、見学したことがある。

会長：あの番組の雰囲気やニ崎にも取り入れると面白いのではないかと。

委員：港湾計画改訂について、100年の森づくりが取組まれている尼崎の森中央緑地の真横に、トラックが入る場所を作る計画について不思議に感じる。決まっているものに対して、意見を述べてもどうにもならないのかもしれないが、人が集まり、生物多様性の森にしようとしている場所とどのように共存共栄していくのか。尼崎21世紀の森づくりを一生懸命支えてきた地域として、前向きにとらえてもらっているのか。既にひょうごフィールドパビリオンのプログラムの1つである、尼崎運河クルーズツアーでは、魚釣り公園から尼ロック、藻川、運河を船で動かされている。尼崎21世紀の森構想エリア全体をひょうごフィールドパビリオンに登録し、観光客の方に来てくださいますと言っているエリアの真ん中に、この計画が描かれているが、整合性はとれているのか。

事務局：尼崎の森中央緑地の隣に20m程度の緑地を緩衝帯として確保している。また、環境の影響については、これから環境アセスメントを行い、定量的に評価する。環境アセスメントの手続きに先立ち、地元説明会を開催した。また本日の埋め立ての計画内容は、令和3年度の尼崎21世紀の森づくり協議会で説明させていただいた。また、地元の環境団体にも説明している。今後もアセスメントや埋立計画の手続きの中で、地元の皆様の意見を伺う機会は設ける。

ひょうごフィールドパビリオンとの整合性については、尼崎の森中央緑地の横にこのような場所ができるということも、地域の姿として見せていけると思う。

委員：こうしないといけないので、こうしていると説明されているようであるが、私は何も知らないで発言しているのではなく、今まで一生懸命森づくりをしてきた人たちから、不安だという声が耳に入っていることから発言している。渡船業を営む方からも、不安であるという声をもらっている。しなければいけないものであるため、このような計画があるのだと思うが、上手く合意が取れるようになれば良い。不安は解消されているわけではないことをお伝えする。

委員：港湾計画改訂の話は、重要であると感じる。これまでの話を踏まえると、計画として決まっているのであれば、どのような形で環境になじませていくかを検討することが大事であると思う。例えば、牡蠣殻を付着させた多孔質な護岸や、石を詰めた蛇籠を設置することで、生きものが住める環境に配慮したものを構築していくこと等を是非考えていただけると良い。

委員：のびのび公園までの交通手段は車しかないと思うが、今後、一般利用者が訪れると、交通渋滞が発生するのではないか。また、港湾計画改訂の話について、埋め立てるのであれば、渡り鳥が水辺で生き物を取る姿を見ることができるよう、砂地を作っていただきたい。

事務局：のびのび公園については、おそらく自家用車で来られる方が多いと思う。平日の利用者は少なく、休日の利用者が多いと考えている。今回、フェニックス事業用地に、大阪・関西万博の会場外駐車場として2千台分を設けた。実際、2千台の車は来なかったが、交通渋滞による大きなトラブルが起こったことは聞いてない。のびのび公園の駐車場は、100台程度の広さであるため、大きな交通渋滞を招くことはないと考えている。

会長：森づくりの方では、尼崎の森中央緑地緑化技術検討会の中で、水面に面した場所では本来はウバメガシ林やクロマツ林であるが、埋め立てるのであれば、植生を変えないといけないと懸念が出ていた。この計画図を描く前に、港湾課と公園緑地課でもっと相談した方が良い。この時世、インダストリアル・パークとして、工場そのものを公園にするような発想で、尼崎の森中央緑地に匹敵するくらいの環境配慮型の土地を作ることが、兵庫県の立ち位置であると思う。グレーからグリーンという発想が世界の潮流であり、尼崎21世紀の森構想エリ

アでもまさに、このグレーの形をグリーンにしようという発想で取組んでいる。埋め立てるのであれば、覚悟を決めて、世界最先端の埋立地にするための相談をした方が良い。

委員：埋め立ての形について、議論の余地はあるのか。

事務局：港湾計画が決まったところであり、必ずしも事業が確約したものではない。中身についてはこれから進めていくような状況である。今後、手続きの中で、県民・市民の方にも、ご意見をいただければと思う。

会長：私が委員長を務めている湾岸線のアセスメントでは、デザインも含めて住民の意見を反映する。ところが、私がこれまで県で経験したアセスメントは、デザインに関する意見を反映しない。事業を実施することが可か不可か、査定するのがアセスメント。その時に、住民の方の意見をいかに反映させるかがアセスメントだが、皆さんのされているアセスメントは十分に反映されていない。この計画を実施されるなら、住民の意見を反映させるという強い姿勢でアセスメントに取り組んでいただきたい。私が委員長を務めているアセスメントでは、必ず住民から出された意見を取り入れ、アセスメント後の本計画にどう反映させるか、そこまで考えて進めさせていただいている。

## ■協議事項

- (1) 尼崎21世紀の森構想エリアにおける「共創」によるまちづくりの推進について（資料6）
- (2) 令和8年度の実施計画について（資料7）

## ○資料説明（事務局）

資料6から資料7をもとに事務局より説明。

## ○意見交換

委員：資料6で説明のあった躍動カフェに私も参加した。私が参加したグループには、地域やSDGs活動に関心のある高校生と大学生の参加もあった。彼らは、躍動カフェで森をテーマにした話をするということで、事前に森に行き、凄い場所があると感じたそうであるが、それ以前は存在を知らなかったそうである。アンテナを張っている若者にさえ、この場所の存在が伝わっていないことが課題であり、常時、情報を発信する必要があることがグループの中で意見として挙げられた。大人世代と学生では発信する情報の種類が異なるため、若者に刺さるようになるには、その世代に刺さる方法を学ぶこと、また、若者に関わってもらうには彼らに任せていくことが一番良い方法ではないかという意見も挙げられた。

会長：子どもたちは、我々とは異次元の世界に住んでいる。そういう異次元の世界でのコミュニケーションのツールを使うことは良いと思う。

委員：阪神南エリアで、大学生の学生支援をさせていただいている中で、中高生や大学生が、尼崎21世紀の森構想エリアにアクセスするのは難しいと感じている。大学生がふらっと集まり、何かしたいなと思える場所になるには、バス路線の確保をしてもらえると、若い世代が一層来やすくなるのではないかと。資料6について、外からどのように来てもらうかという話が多いが、今後の尼崎21世紀の森構想エリアのまちづくりにおいて、近くにお住まいの地域の方の意見はどのように入るのか。

事務局：資料7で令和8年度の取組みについて紹介しており、尼崎21世紀の森構想推進に関わる人たちが一堂に会する意見交換会やヒアリング等を行うことを検討している。また、資料6の10ページで「共創によるまちづくりの推進イメージ」を描いているように、既存の取組みも踏まえた上で、今後の展開を考えていく。

委員：地域の意見は非常に重要であるため、今年度取り入れておらず申し訳ないが、何かの形で行っていく予定である。躍動カフェでは、今までとは違った人にもエリアについて発信していかないといけないという意見が挙がったことを踏まえて、躍動カフェに参加された方が早速実行に移されて、「夕焼け珈琲in北堀運河」というイベントを開催される。

委員：淡路島の3つの学校と連携して探究学習を行っており、高校生のアイデアが一番面白いという感覚があるため、高校と連携することに関して可能性を感じる。連携をきっかけに関わる学生は、何人か出てくると思われるため、その繋がりを広げていくことは大事であると思う。

探究学習を行っている南あわじ市は、平坦な土地であるため、高校生は自転車で移動している。当初、探究学習のためにバスの予算を確保していたが、高校生は自転車で長距離を移動して調査データを集めていた。尼崎21世紀の森構想エリアでも、高校生は自転車での移動が可能ではないか。

「子ども」というキーワードはあまり出てきていないが、工場地帯という特性を活かして、子どもワークショップで、ものづくり等をしながら、楽しい雰囲気を作っていくことも大事である。

資料6の共創によるまちづくりの推進イメージは、非常に良いと思う。このような考えができるキーパーソンは外さないようにすることが、意外と大事ではないか。そういった検討や活動に必要な資金を持ち出しで行われていることも多いと思う。何かプロジェクトが立ち上がった時に、行政による金銭的な支援が大事である。

会長：30年ほど前に丹波サイクリングロード計画を作成し、現在、篠山と柏原を結ぶ道路ができています。柏原高校の高校生のためのサイクリング道路として作るため、国土整備として交付金を使い、サイクリングロードを整備しました。このようなノウハウを使えば、このエリアでも様々なプロジェクトができるのではないかと。

かつて兵庫県立人と自然の博物館で、地元であるフラワータウンの人々を大事に考えて、どのように地域に関わっていけるかについて議論したことがある。海外の博物館には、博物館が立地している地域コミュニティの人をケアする担当がいる。ニュージーランドやカナダでは、亡くなられた人が、自分の遺産を博物館に寄贈する取組みが行われており、日本でも取組まれるようになってきている。博物館だけでなく、公園でも地域の方をどう大事にするかということを考える時代になっている。公園で、地元ファーストのような取組みをすると、今のトレンドに合うのではないか。

資料6の年表について、7と9ページの森部会に関して、整合性はとれているのか。

事務局：7ページは尼崎の森中央緑地での活動、9ページは尼崎21世紀の森構想エリア全体での工場緑化に関する取組みに仕分けしている。

会長：森部会で実施された活動と、森部会で実施されたものではない活動があるように思うため、その辺りを整理されると良い。

## ■その他

(1) 県公園緑地課からの報告（指定管理者の決定について等）（資料8）

### ○説明（事務局）

指定管理者の決定及び資料8について事務局より説明。

### ○意見交換

委員：尼崎の森中央緑地の指定管理者が新しく決まったということであったが、報告・説明事項の（1）で、指定管理者主導による事業報告が無かった。他公園でも、利用促進事業は非常に活発であるが、特に民間企業が指定管理を行っている公園では、収益事業にも力を入れている。一方、公益性を大事にしている組織が指定管理を行っている場合、利用促進の方を強力に頑張っている印象があるため、収益事業でも頑張ってもらえると良いと思う。学生が公園管理に興味を持ってくれない事情があり、いかに学生に興味を持ってもらうかを考えるにあたって、ソフト事業を頑張ってもらい、収益を上げる団体が出てくると良い。

委員：収益事業に関連することとして、ネーミングライツがあるが、尼崎の森中央緑地に関しては、ネーミングライツは適さないと思う。地元企業や地域の多くの方が、地域の活性化に繋げることに賛同して、無償の形で森を育てられている。全然関わりのない企業の名前が付いた公園名になると、我々としても思いがあるため、この件については気を付けていただきたい。

事務局：尼崎の森中央緑地は、県で整理しているネーミングライツの検討対象リストから除外している。

委員：阪神南県民センターとしても、尼崎の森中央緑地は地域の方と共に取組まれており、ネーミングライツは適さないと考えているため、引き続き対応したいと思う。

委員：ファクトリーツーリズムの話があったと思うが、若者の参加を考えると、工業高校や工学部系の大学生を対象に、学生インターンと工場見学を掛け合わせることをしてはどうか。見学ツアーのルートの中に、公園管理に関する内容も入れて、学生が参加でき、企業にもメリットのあるプログラムを組むことは大事であると思う。大学として協力することがあれば協力する。

委員：大学との連携は有難く、地域の方にも企業や現場を見ていただく良い機会であるため、そのような方向で何かを進めていけたらと思う。

委員：収益事業の話に関して、尼崎の森中央緑地は、指定管理者が収益を上げることができる構造になっているのか。例えば、駐車場の有料化や、イベント開催による出展料等があるのかもしれないが、そのような可能性はあるのか。

事務局：収益の大きな割合を占めてはいないが、森のグッズや薪の販売、イベント出展料をいただくことを行っている。駐車場については、イベント時に有料化することで、多くの収入が得られるが、平日は収入が減ることや、お金の管理の問題がある。また、今まで気軽に来てくださっていた家族層や、指定管理者が行っている小さなイベントに参加してくださっている方の足が離れてしまうのではないかという懸念がある。指定管理者としては、次の5年間において、有料化について検討していく。

委員：指定管理を行う民間企業が公園以外の仕事をすることは結構ある。地域展開等、多角的な事業展開を考えられたらどうか。

会長：指定管理の収益については、議論が付きないが、最近では、入園料の高い施設が増えてきている。例えば、大阪公立大学附属植物園や六甲高山植物園は入園料が高い。また、京都府立植物園では、高齢者は無料から有料に変わった。高槻市にある安満遺跡公園には、3つほどの施設があるが、全て黒字経営である。兵庫県の指定管理は有料化等を容認する仕組みが無いいため、県全体で指定管理のあり方について議論しないといけない。

ネーミングライツはあまりもうからない。行政から依頼して協力してくれる企業もあるが、それでも大きな額ではない。

資料8の1行目、「自然環境保全や活性化のあり方にかかる検討」という文言について、これからの都市公園というのは、生物多様性を踏まえた上での環境保全である。この時代の潮流に適した文言に修正した方が良い。

## ○その他（各委員の方からのご発言）

委員：尼崎という特徴を活かして、企業に関わるコンテンツに焦点を当てた教育ができると思う。

委員：県内の商工会議所全体でSDGsの貢献企業を広げていくことに取組んでおり、尼崎市は商工会議所の会員の9%ということで、目標366社に対して1月末で456社となり、皆様のご協力をいただき達成することができた。引き続き、企業のSDGsについて支援していきたいと考えている。

委員：青年会議所は、まちの課題に対して毎年違ったアプローチを行っている団体である。令和4年度に尼崎21世紀の森SDGs賞をいただいたことはあったが、そういった我々でも正直、このエリアの情報に関して薄いと感じる。会員も変わっていくため、広報について引き続き考えていかないといけないと思う。

委員：引き続き皆様と取組んでいきたい。

委員：弊社としては、今年度の下半期は、森のフェスタへの参加や、エリア設定型の森づくり、第3工区の植樹、企業版森の会議への出席をさせていただいている。弊社では、ペットボトルキャップを製造しており、回収やリサイクルに取り組んでいるという中で、森のフェスタでは、ペットボトルのキャップを持って来られた来場者に、ガチャガチャを回していただくという新企画を初めて行った。想定以上に沢山の方に来ていただき、関心の高さを感じた。この会議で特別、何かを提案することは難しいが、来年度も様々な取組みが予定されているため、引き続き参画していきたい。

委員：初めて協議会に参加し、自分の社員が、どれほど尼崎21世紀の森構想の推進に関心があるのかなと気にしながらお話を聞いていた。恥ずかしながら、会社として森づくりに参画しているのにも関わらず、社員の関心が薄いと思う。家族を養うために働く社員がいる組織を持ちながらも、地元の活動に関心が薄いため、社内の様々なツールを使い、地道に活動を行った上で、例えば大学に赴き、森づくりに関心を持つ子どもを増やすようなことに取組んでいけたらと思う。

委員：資料6では、森構想エリア外と繋がることで関係人口を増やすという表現になっているが、中瀬会長から意見のあった地元ファーストで取組むことに関して、共感するため、このことについても記載していただきたい。  
交通の便に関して、中瀬会長から紹介のあった柏原高校の生徒のためのサイクリングロード整備の話が心に響いた。尼崎21世紀の森構想エリアに向けて、そのようなものがあれば、具体的な施策に繋がると感じる。

委員：尼崎では地域一体型オープンファクトリーが既に行われている。我々としては、様々なネットワークがあり、参画している企業の強みを活かしながら、様々なところから関わりながら進めていければと思う。

委員：まちづくりという言葉が、ぼんやりしていると感じた。

今年は、はじまりの森で木を植えてから20年が経つ節目の年である。県でもイベントを考えられており、我々も振り返りをしたいと考えている。

埋め立てについては、危機が迫ってきたなと感じている。今更、海辺の植物が植えられないという議論もあり、足元をすくうようなことは止めてほしい。

4月から、尼崎の森中央緑地の指定管理が次期に移るということで、この5年間に第3工区が開園するのではないかと予測している。森が大きくなると植樹は少なくなるため、その後の活動をどうするか、指定管理者と一緒に考えていきたい。

委員：次年度からの指定管理が次期に移り、体制が変わられるため、森の文化祭の開催が難しいと思うが、地域の方が関わるイベントが無くならないようにしてほしい。

私は、西宮市のNPOに所属している。西宮市は、酒やスイーツがあり、大学生も沢山いる。ローカルも大事であるし、外から来ていただくのも大事である。これからも協力していきたい。

委員：地域に尼崎の森中央緑地があることをPRするために、森の文化祭を開催してから10年が経ち、今後も続けていきたいと思う。当初から交通手段がないため、来年度は地域と中央緑地を結ぶバスが運行されることを期待する。

会長：兵庫県で、参加型による公園づくりが初めて行われたのが、有馬富士公園である。20年程前に、兵庫県立大学の研究者を中心に旗を振って取組まれ、それを見た国土交通省が、日本中の公園に取り入れようということで広がった。しかし、現在の有馬富士公園は静かである。他の公園の協議会にも入っているが、この尼崎21世紀の森づくり協議会が、一番活発に議論されている。エリアの活性化に向けて、是非頑張ってもらいたい。

## ■閉会

以上